



**IBARAKI TOYOPET
RACING TEAM**

**GR86/BRZ Race
PROFESSIONAL Series**

**予選でのミスで、最後尾スタートとなった平木湧也
決勝では終始アグレッシブな走りを見せ、28 位完走を果たす**



GR86/BRZ Race PROFESSIONAL Series 第10戦

2017年12月9日～12月10日 富士スピードウェイ

晴れ 10 LAP (35 台出走)

予選 35 番手／決勝 28 位

ドライバー：平木 湧也

チーフメカニック：清水 修（水戸千波店）

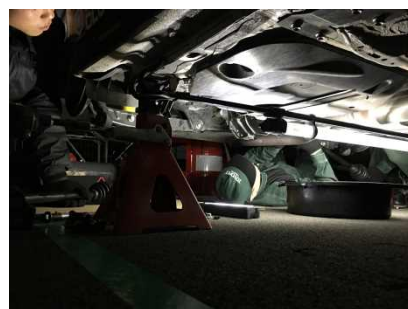
メカニック：木村 祐介（笠間大鳥居店）

メカニック：安見 卓磨（笠間大鳥居店）



富士スピードウェイを舞台に、GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズの第10戦が、12月9日～12月10日に開催された。茨城トヨペットレーシングチームは、今回も平木湧也選手を擁し、シリーズ最終戦に臨んだ。

今回は、レースウィークの走行に加えて事前にテスト走行も敢行。マシンの細部をチェックし、セッティングなどの方向性もしっかり見定めた上で富士にやってきた。その甲斐もあってか、金曜日に行われた練習走行3セッションでは、良いパフォーマンスを発揮。同じグッドイヤーのタイヤを履くライバルを先行するほどのタイムも記録し、手応えをつかんでいた。



最終戦は公式予選の時間が10分間と限られており、まさに“一発勝負”という状況下で自己ベストグリッドを目指した平木選手。しっかりタイヤをウォームアップさせて、いざタイムアタックに臨むが、想定外の事態が発生してしまう。目の前を走る車両がコースオフして、その影響を受けてタイムロスしてしまったのだ。なんとか挽回しなければという気持ちが焦りにつながってしまったのか、直後にシフトミス进行、大きくタイムロスを喫してしまう。その後のセクションも完璧にまとめきることができず、結局ベストタイムはトップから2.595秒遅れの2分05秒858で、まさかの最後尾35番手に沈んでしまった。

「練習走行の段階でも、感触としては非常に良くて、すごく順調に来ていたのですが、予選アタックが全然うまくいきませんでした」と悔しがる平木選手。決勝に向けては「順位を上げていくしかないので、精いっぱい頑張ります」と挽回を誓っていた。

翌 10 日に行われた決勝レース。この日も富士スピードウェイは晴天に恵まれ、TOYOTA GAZOO RACING FESTIVAL が開催されていることもあり、グランドスタンドには多くのファンが詰めかけていた。35 番手からスタートした平木選手は、前日の宣言どおり 1 周目から果敢に攻めていき、前のマシンを次々と抜いていく。特にスタート直後の TGR コーナーでは前方で混乱もあり、そこで順位を上げ、コース後半のダンロップコーナーでも混戦の中で前に出ていく。

この時点では 27～28 番手あたりまで順位を上げるが、最終のパナソニックコーナーを立ち上がる時にシフトが入らないアクシデントに見舞われ失速。これで数台に抜かれてしまうが、1 周目は 32 番手で通過。その後はリズムを取り戻し、前を走るマシンを 1 台ずつパスしていく。レース後半の 6 周目に 30 番手に上がると、終盤ではさらに 2 台をオーバーテイク。最終的に 28 位でチェッカーを受けた。

途中、何度かシフトが入りづらい症状に見舞われたほか、途中はタイヤも消耗し始めている状況下でのレースとなったが、2 周目以降は順位を落とすことなく、積極果敢に攻めていった平木選手。決して満足いく結果ではなかったものの、成長が垣間見えた 1 戦だった。



平木湧也選手のコメント



「スタートで混乱があって、いくつかポジションを上げたのですが、最終コーナーでシフトが入らなくなって、何台かに抜かれてしまいました。そこから 1 台ずつ追いついていったレースになりました。決勝は厳しい状況でしたが、その中でうまく順位を上げていったのは良かったです。でも、クルマの仕上がりは良かったですし、今のパッケージではかなり良いバランスになってきていたので、それも活かすことができました。今シーズンはチームとしても初めてプロフェッショナルシリーズに参戦でしたし、僕自身もツーリングカーでの参戦は初めてでしたけれど、その中でなんとかチームに助けられながら、1 年戦うことができて、その点はすごく感謝しています。ただ、もうちょっといい結果は出したかったという思いはありますが、初年度でいきなり好結果というのは難しいですし、何年もやっている先輩方も多いので、その壁を崩していくのは難しいですけど、こうして一緒に戦えたのは、すごくプラスになりましたし、勉強になった 1 年でした。この経験をうまく来年につなげていけたらな、と思います」

チーム監督のコメント ～石川 一郎 (FUN TO DRIVE 推進グループ) ～



茨城トヨペットレーシングは、本年度よりプロフェッショナルシリーズにフル参戦を開始。毎レース3名の店舗スタッフがレースメカニックとして入れ代わり参戦し、全レース戦い抜くことができました。ご支援、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。ドライバーとしてもチームとしても初めて挑んだプロフェッショナルシリーズ。全10戦、全力を尽くしましたがポイント獲得は叶いませんでした。この悔しさを糧にしてチームとして成長し一步一步前進して参りたいと思います。

今シーズン、残すレースは12月17日(日)に富士スピードウェイで開催される「GOODYEAR Vitz&86/BRZ Dream Cup 2017」だけとなりましたが、良い形で締めくくれるよう頑張ります。今後ともご声援、よろしくお願いいたします。

チーフメカニックのコメント ～清水 修 (水戸千波店) ～



今回もチーフメカとして第2戦オートポリス以来の派遣となりました。参戦にあたり協力頂いた店舗スタッフと入念な準備をして頂いた本社スタッフの皆様の多大なるご厚情に感謝致します。今シーズン参戦を重ねるにつれてチーム体制や機材も整って行き、最終戦では運営面と車両共にトラブル無く非常に段取り良く終えることが出来ました。今回同行の二人も含め各ラウンドに帯同したメカニックと会う度に「楽しかった」「また来シーズンも参戦したい」という言葉を掛けられる事が多くなりました。事前メンテも

担当するポジションとして現地でトラブルの出ないように整備を行ってきた積み重ねが徐々に実ってきた結果だと思えます。今シーズンで得た経験値を来シーズンでも生かしつつ、一人でも多くのメカニックに同じような気持ちを持ってもらえるよう今後も精進したいと誓った最終戦となりました。

メカニックのコメント ～木村 祐介 (笠間大鳥居店) ～



今回レースメカニックとして初めて参加し、とても貴重な体験の機会を頂き、店舗及び関係者の方々ありがとうございました。数々の不安の中自分には何が出来るのか心配でしたが、とても充実した日々を過ごすことができました。私自身、レースメカニックが凄く特殊な環境かと身構えていましたが、日頃の整備の延長であり、セットアップがタイムに直結する面白さがまた参戦したい気持ちになりました。暖かく迎えて頂いたスタッフの方々ありがとうございました。

メカニックのコメント ～安見 卓磨 (笠間大鳥居店) ～



IBARAKI TOYOPET RACING TEAM を応援して頂いた皆様、店舗スタッフ並びに関係者の皆様、ありがとうございました。レースウィークは、通常の走行では無い故障やトラブルがあり、レースならではの整備・セットアップができました。また、テント設営やレース前の準備など普段とは違う仕事も多くあり大変貴重な体験をする事が出来ました。是非、多くの人にGR86/BRZ Race に参加してもらいたいです！

GR86/BRZ Race

Racing Development
TRD

GOODYEAR

PMU

BILLION
OILS

BRIDE